

令和6年度 生活科 研究のまとめ

石田 浩子・柳井 裕美

1 生活科本来の魅力に迫るための教師の資質能力について

(1) 生活科が考える「教師の資質能力」の具体

これまでの研究を通して「生活科本来の魅力に迫るための教師の資質能力」の内容を、授業実践の結果から以下に示す。

資質能力	生活科が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力	<ul style="list-style-type: none">・児童一人一人の経験や関心を踏まえつつ、成長する児童の姿を具体的に想像し、記述する力・児童、学校、家庭、地域の実態にあった身近な事象を設定する力・多様な活動や繰り返しが可能となるよう、やわらかな単元構成・児童同士の関わりを生む素材や教具を見極める力・異学年と繰り返し交流する場の設定・交流しやすい場所を見極める力
授業実践力	<ul style="list-style-type: none">・環境構成（板書等を含む）に関する技術・直接的な関わりとしての話し方や言葉かけ、表情に関する技術・児童の姿や記述を受け止め、価値づけて返していく技術・共通素材との出会いの場の工夫・遊び方に着目できるような導入の工夫・多様な人々と遊ぶ場の設定・異学年や保護者などと繰り返し交流する場の設定
授業分析・評価力	<ul style="list-style-type: none">・児童の姿、児童が表現したものなどを通して、授業の次回以降の展開を調整したり、自分自身の児童理解の力を伸ばしたりする力・児童の思いや願いに沿って単元計画を修正する力

(2) 生活科の特性に応じた見取りの方法について

児童の思いや願いを引き出し、児童の表現からその思いをくみ取ることが大事にしたいと考えている。そのため、児童が自分たちの生活と地域の様々な人や場所との関わりについて、どのような気付きが生まれ、それらがみんなのためや安全に生活するためにあることの意味を見いだすことにつながったのか、児童の姿や語っている事柄、ワークシートの記述内容から、思いや変容を見取る。

(3) 授業公開で見取った児童の姿の例

小学校生活科 2年「いいね👍 しののめの町」

資質能力	児童の姿	手立て
授業構想力	<p>インタビューをしたお店や施設の位置感覚を味わいながら楽しんで活動している姿が見られた。(実際に距離のあるお店からお店へ移動していた児童は、「遠かった。疲れた。」と言っていた)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントマット (お店や施設) や平均台 (陸橋) などを使って, 体育館の半面に調べた通学路を表現した。
	<p>「たんけんメモ」を使って, 分かったことや気付いたことなどを友達に積極的に伝えることができていた。「たんけんカード」の絵を指し示しながら, 伝えるだけでなく, 質問に丁寧に答えている姿も見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の学校探検の単元でも活用した「たんけんメモ」の大きさを2倍にした。ジョイントマットの上に, 「たんけんメモ」にかいた絵を表にして置くことで, 絵を見せながら, 相手に分かりやすく伝えることができるようにした。(絵の裏面には, その絵に関する短い言葉で書くようにした)
授業実践力	<p>様々なお店や施設の「あんしんポイント」を見つけることができていた。他のチームで見つけたしののめの町の「いいね」を交👍する場では, 児童の目の前に「たんけんメモ」がなくても, どのチーム (お店や施設) のどんなところが「あんしんポイント」だと思ったのかを伝えることができていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各チーム, 事前に必ず伝えたいことを決めてまとめておいた。 ・赤白帽子を使って, 伝える人は赤, 聞く人は白にすることで, 児童同士が声をかけ合うことができるようにした。 ・「あんしんポイント」は, 必ず伝えるようにすることで, 共通の視点をもって活動できるようにした。
	<p>どんな質問をされても, 各チームの伝える側の児童は, 生き生きと答えることができていた。たくさんの人が驚いてくれたり知ってくれたりすることに満足そうな様子であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームのこだわりを引き出すことができるように, 「みんなが知って驚いたことは何ですか。」「あんしんポイントは何ですか。」などの声かけをした。
授業分析・評価力	<p>東雲の町は, 賑やかであり安心して過ごせる町として捉えていた。また, これからは, 昨年度学校探検の学習でお世話になった先生方を招待して, 「次は自分たちが東雲の町について調べたことを伝えていきたい。」といった思いをもつことができていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「東雲の町ってどんな町だと思いますか。」「これからどうしたいですか。」と問いかけた。

2 研究の成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none">○「いいね👍=あんしん」といった共通の視点をもって学習をしていくことで、どのお店や施設にもお客さんや利用者のことを考えて様々な工夫をされていることに気付くことができていた。○昨年度の学校探検の学習に引き続き「たんけんメモ」を活用し、お店や施設を調べて分かったことを書いたり、繰り返し伝え合ったりすることで、昨年度の経験を活かして楽しみながら活動に取り組むことができていた。（「たんけんメモ」のかき方、伝え方等）○体育館の半面を使って調べた通学路を表現することで、インタビューをしたお店や施設の位置関係に気付くことができていた。また、人（友達、先生、保護者）や場所と関わっていく楽しさをより実感できていた。
課題	<ul style="list-style-type: none">●「いいね👍=あんしん」といった共通の視点をもって学習をしていったが、人（個人や状況等）によって「あんしん」は違うため、「いいね👍=あんしん」とは一概には言えないと考えられる。共通の視点を設定する際は、様々なことを吟味する必要がある。